

目的 前報で各種カーペットと空中浮遊菌数との関係を調べ微生物汚染の防止効果を認め、カーペットを敷くことにより空中浮遊菌数は減少し、カーペット内の菌数は増大した。そこで、カーペット内に残存する微生物を分離、同定し、而微生物処理を行なうため適切な薬剤の検索およびその処理効果を挙げるために検討を行なった。

方法 1981年11月、大阪市大生活科学部南棟3階の中央廊下にナイロン100%のカットパイルカーペットを敷き、使用日数0, 4, 8, 10, 12, 14日後のカーペット中央部1cm<sup>2</sup>を採取した。菌の分離は平板希釈法により、分離培地は糸状菌が麦芽汁寒天培地、細菌類が加糖肉汁寒天培地、酵母がYM寒天培地をそれぞれ用い、出現菌数をCount, 出現したColonyを釣菌し、供試菌株とした。分離株中、糸状菌の検索はGenus *Aspergillus* (Raper, Fennelly), *The penicillia* (Sabaguchi, Abe), *Mucorales* (Zycha, Siepmann, Linneemann), *The Fungi* IVA, IVB (Ainsworth, Sparrow, Sussman), 細菌類は *Bergey's Manual of Determinative Bacteriology* 第8版, 酵母は *Lodder and Kreger-VanRij* の便覧に準じた。

結果 使用日数0~14日後のカーペット6試料を平板希釈法により分離した細菌の出現数は、その経過とともに  $1.5 \times 10^2 \sim 7.2 \times 10^6$  Cells/cm<sup>2</sup> に増加した。糸状菌は  $8 \sim 7.1 \times 10^3$  Cells/cm<sup>2</sup> で細菌と同様の傾向を認めた。酵母は *Rhodotorula glutinis* var. *glutinis* が8日経過後2~3 Cells/cm<sup>2</sup> 出現した。平板希釈法により114株の糸状菌を分離し、*Aspergillus*, *Aureobaculum*, *Mucor*, *Cedacephalum*, *Penicillium*, *Trichoderma* の6属9種を同定した。未同定の不完全菌は114株中、5株であった。